

第222回 信用保証利用企業動向調査

(2024年7～9月期実績、2024年10～12月期見通し)

福岡県信用保証協会は、株式会社日本政策金融公庫と共同で、福岡県信用保証協会をご利用いただいている中小企業に対し、景況・金融動向を把握するため、四半期毎にアンケートを実施のうえ発表しています。

なお、次の発表は2025年2月を予定しています。



— 今回の調査 —

【調査時点】	2024年9月中旬
【調査対象】	1,584企業
【有効回答数】	464企業（回答率29.3%）
【調査方法】	郵送またはWebによるアンケート調査



～ 福岡県内の景況・金融動向 ～

「県内信用保証利用企業の景況は、持ち直しの動きに一服感が見られます」

生産・売上

全ての業種で悪化し、特に製造業、卸売業で大幅に悪化しました。

採算

サービス業を除く全ての業種で悪化し、特に製造業、卸売業、建設業で大幅に悪化しました。

資金繰り

小売業を除く全ての業種で悪化し、特に建設業、製造業、卸売業で大幅に悪化しました。

借入難易感

小売業、サービス業を除く業種で悪化しました。

■お問い合わせ先

企業支援部 業務企画課 楠本・本田 電話092(415)2609

URL : <https://www.fukuoka-cgc.or.jp/> Mail : hoshou-kikaku@cgc-fukuoka.jp



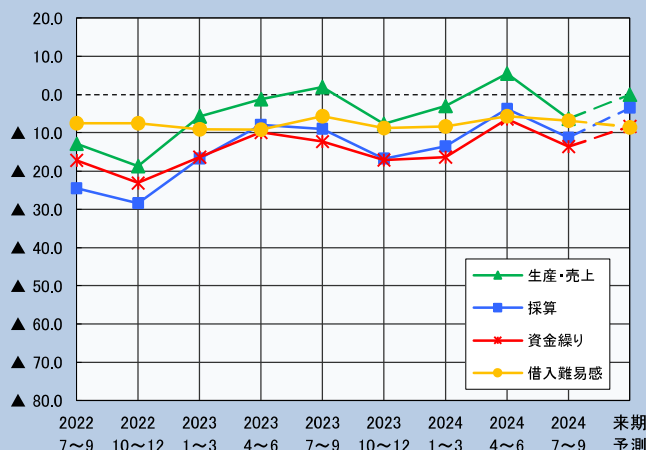
概況

総合DIの推移

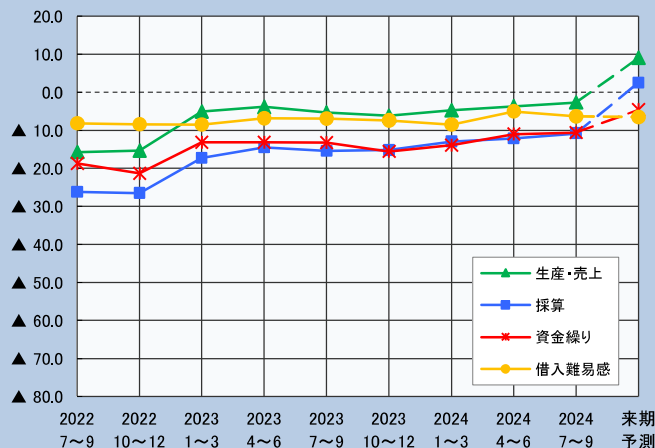
コメント ～福岡の景況は持ち直しの動きに一服感が見られる～

今期調査(2024年7～9月期)による景況動向指数は、前期(2024年4～6月期)実績に比べ、全国値では、生産・売上DI、採算DIはマイナス幅がやや縮小、資金繰りDIは横ばい、借入難易感DIはマイナス幅がやや拡大しました。福岡では、生産・売上DIはマイナスに転じ、採算DI、資金繰りDIはマイナス幅が拡大、借入難易感DIはマイナス幅がやや拡大となりました。来期予測について、全国および福岡ともに、借入難易感DIが悪化する見込みとなっています。

福岡



全国



※景気動向指数DI(Diffusion Index)とは・・・

景気動向指数DIとは、景気の現状と先行きを予測する動向指数で、アンケート調査において、前期に比べ、「増加(または、好転、容易)」と回答した企業割合から、「減少(または、悪化、困難)」と回答した企業割合を差し引いた数値から、季節的な変動要因(季節調整値)を控除した数値です。

TOPICS

◆経営改善計画書の策定にお悩みの方は、ぜひご利用ください！◆

当協会では、当協会ご利用者の方向けに専門家派遣サービスを行っており、「経営改善計画策定支援&フォローアップ」のメニューがございます。経営改善計画書の策定にお悩みの方は、ぜひご利用ください。

その他にも、各種メニュー取り揃えておりますのでお気軽にご相談ください。

お申し込みはこちらから



5 経営改善計画策定支援&フォローアップ

対象者 経営改善意欲をお持ちで、専門家と一緒に経営改善計画書の策定をご希望の方

支援内容 経営改善計画書の策定をサポート&計画に基づくフォローアップをします！
例)現状分析、改善策、アクションプラン、数値目標、借入金返済計画などを計画書におまとめします

所要期間 計画策定完了まで約6か月(お客さまの経営状況に応じて専門家の訪問回数が異なります)
フォローアップは計画策定完了後、最大3年間

費用負担 無料～最大120,000円(専門家への謝金の一部を当協会が負担します)

※所定の審査により、ご利用いただけない場合がございます。



福岡県信用保証協会

本所企業支援部



0120-112-249

生産・売上DI

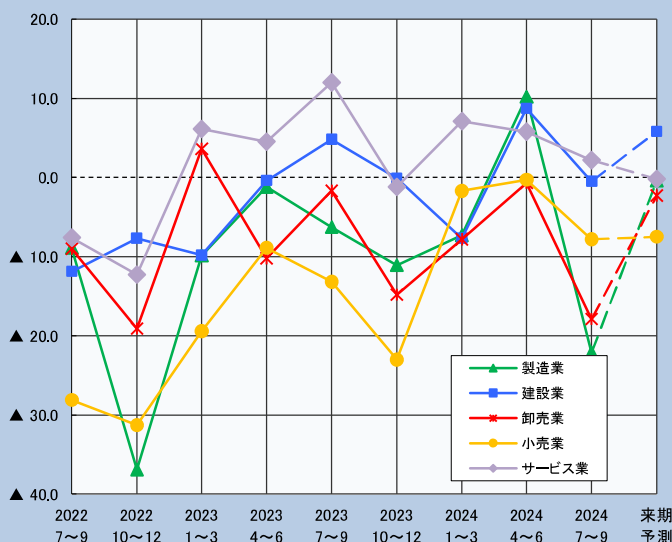
コメント ～全ての業種で悪化し、特に製造業、卸売業で大幅に悪化～

生産・売上DIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ11.8ポイント大幅に悪化し、▲6.3となりました。

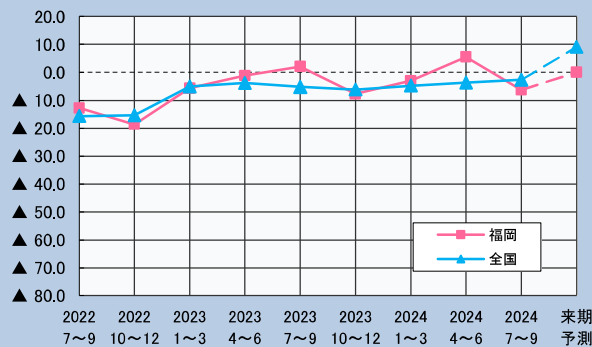
業種別では、前期実績に比べ、製造業は32.3ポイント、卸売業は17.2ポイント大幅に悪化し、建設業は9.2ポイント、小売業は7.5ポイント悪化し、サービス業は3.6ポイントやや悪化しました。

来期予測では、サービス業を除く全ての業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の実産・売上DI推移(業種別)



全国と福岡県の実産・売上DIの総合



福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	9.4	▲ 6.3	0.0
製造業	8.8	▲ 22.1	▲ 0.4
建設業	15.4	▲ 0.5	5.8
卸売業	12.7	▲ 17.9	▲ 2.3
小売業	▲ 2.8	▲ 7.8	▲ 7.5
サービス業	7.4	2.2	▲ 0.2

採算DI

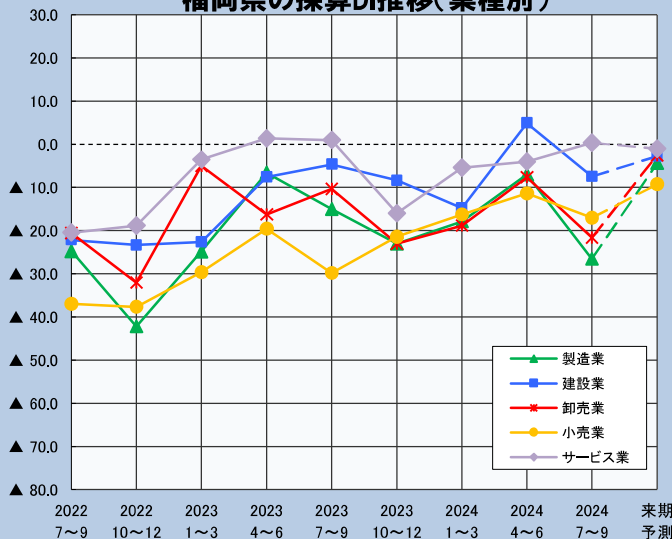
コメント ～サービス業を除く全ての業種で悪化し、特に製造業、卸売業、建設業で大幅に悪化～

採算DIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ7.5ポイント悪化し、▲11.2となりました。

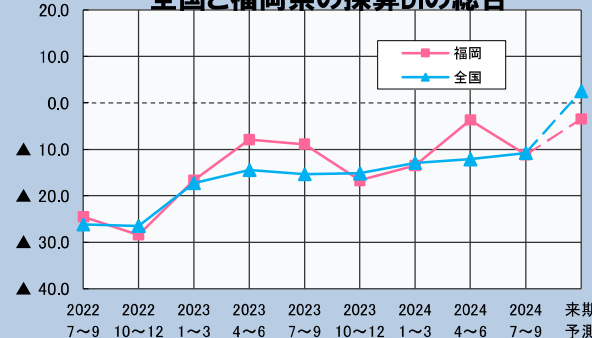
業種別では、前期実績に比べ、サービス業は4.4ポイントやや改善しました。一方で、製造業は19.5ポイント、卸売業は14.0ポイント、建設業は12.4ポイント大幅に悪化し、小売業は5.7ポイント悪化しました。

来期予測では、サービス業を除く全ての業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の採算DI推移(業種別)



全国と福岡県の採算DIの総合



福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲ 1.0	▲ 11.2	▲ 3.5
製造業	▲ 5.8	▲ 26.6	▲ 4.4
建設業	6.8	▲ 7.5	▲ 2.8
卸売業	1.0	▲ 21.7	▲ 2.6
小売業	▲ 8.3	▲ 17.1	▲ 9.3
サービス業	▲ 4.2	0.3	▲ 1.1

資金繰りDI

コメント

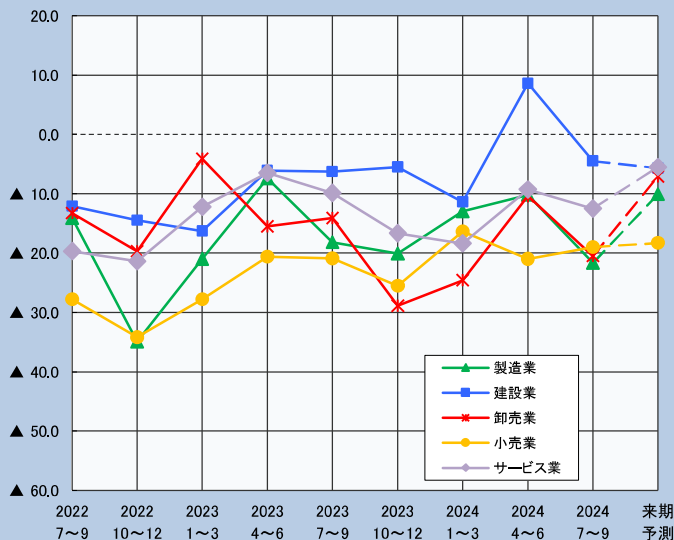
～小売業を除く全ての業種で悪化し、特に建設業、製造業、卸売業で大幅に悪化～

資金繰りDIについて、福岡総合値では、前期実績に比べ7.2ポイント悪化し、▲13.6となりました。

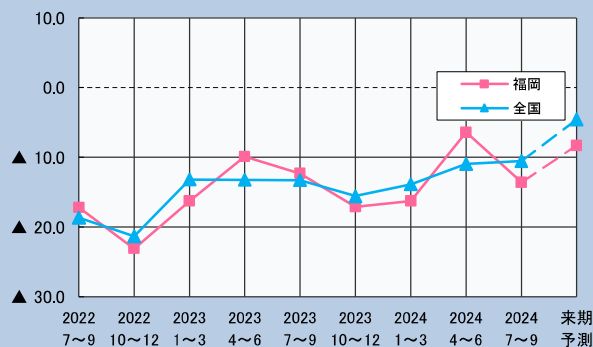
業種別では、前期実績に比べ、小売業が2.0ポイントやや改善しました。一方、建設業は13.1ポイント、製造業は11.5ポイント、卸売業は10.1ポイント大幅に悪化し、サービス業は3.2ポイントやや悪化しました。

来期予測では、建設業を除く全ての業種で改善する見込みとなっています。

福岡県の資金繰りDI推移(業種別)



全国と福岡県の資金繰りDIの総合



福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲ 5.6	▲ 13.6	▲ 8.3
製造業	▲ 13.4	▲ 21.7	▲ 10.1
建設業	6.4	▲ 4.5	▲ 5.7
卸売業	▲ 4.6	▲ 20.5	▲ 7.1
小売業	▲ 13.9	▲ 19.0	▲ 18.3
サービス業	▲ 10.3	▲ 12.5	▲ 5.5

借入難易感DI

コメント

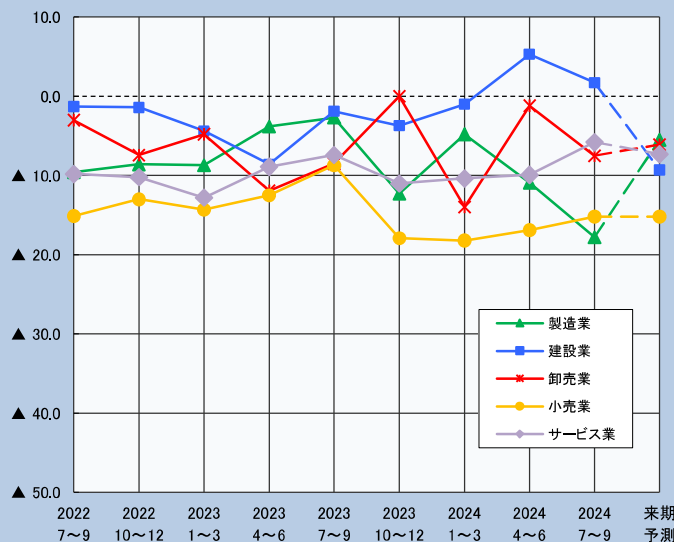
～小売業、サービス業を除く業種で悪化～

借入難易感DIについて、福岡総合値では、前期実績と比べ1.2ポイントやや悪化し、▲6.8となりました。

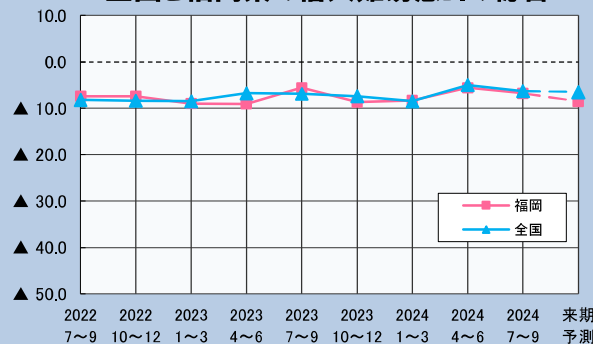
業種別では、前期実績に比べ、サービス業は4.1ポイント、小売業は1.7ポイントやや改善しました。一方で、製造業は6.9ポイント、卸売業は6.3ポイント悪化し、建設業は3.6ポイントやや悪化しました。

来期予測では、製造業、卸売業で改善し、小売業で横ばい、建設業、サービス業で悪化する見込みとなっています。

福岡県の借入難易感DI推移(業種別)



全国と福岡県の借入難易感DIの総合



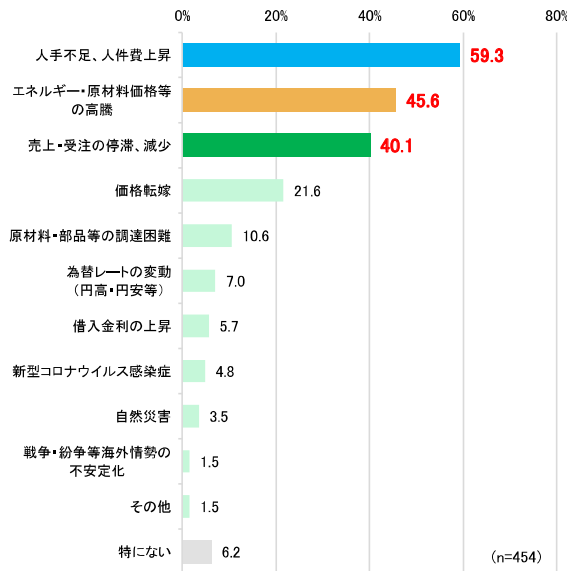
福岡	前期予測	今期実績	来期予測
総合	▲ 5.8	▲ 6.8	▲ 8.5
製造業	▲ 11.6	▲ 17.8	▲ 5.5
建設業	3.3	1.7	▲ 9.3
卸売業	▲ 4.6	▲ 7.5	▲ 6.1
小売業	▲ 15.4	▲ 15.2	▲ 15.2
サービス業	▲ 7.4	▲ 5.8	▲ 7.3

経営環境において直面している課題及び経営計画書の作成と進捗状況等について

1. 経営環境において直面している課題について

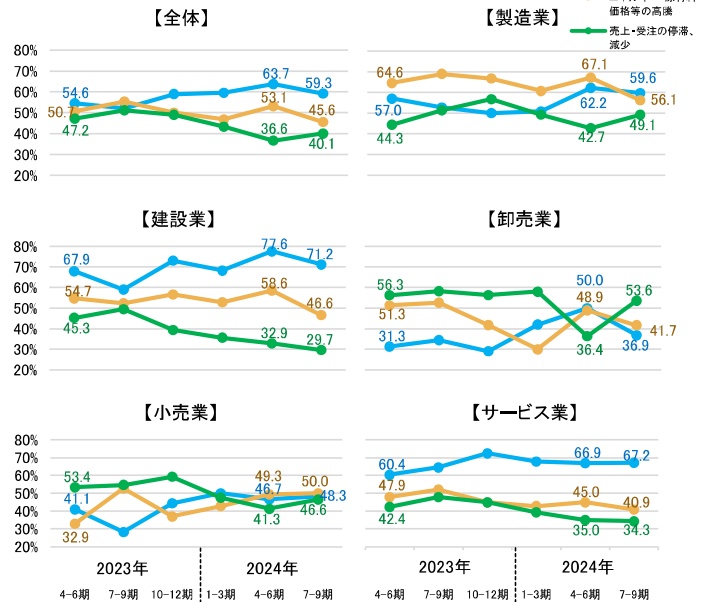
- ・2024年7-9月期の経営環境において直面している課題については、「人手不足、人件費上昇」(59.3%)が最も多く、次いで「エネルギー・原材料価格等の高騰」(45.6%)、「売上・受注の停滞、減少」(40.1%)の順となっている。
- ・業種別に課題の推移をみると、「人手不足、人件費上昇」が高位の業種が多い。「エネルギー・原材料価格等の高騰」が小売業を除き、いずれの業種も前期と比べて低下している。

(1) 経営環境において直面している課題



(注) (1)、(2)は3つまで回答可のため、合計は100%を超える。

(2) 経営環境において直面している課題(上位3課題)【業種別】

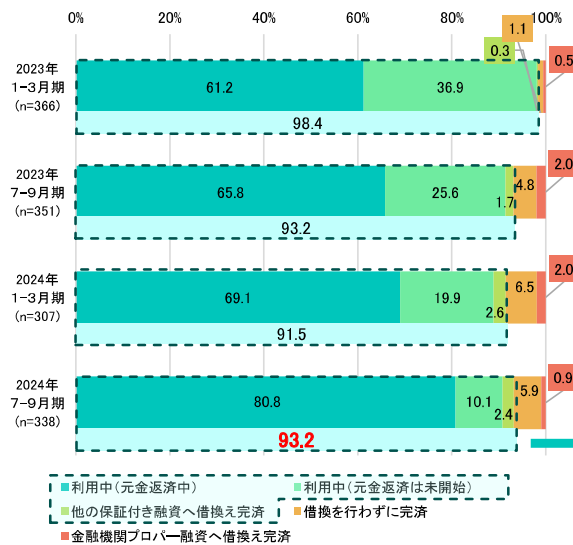


2. ゼロゼロ融資の返済状況、返済見通しについて

- ・ゼロゼロ融資(※)の返済状況については、「利用中(元金返済中)」、「利用中(元金返済は未開始)」及び「他の保証付き融資へ借換え完済」を合わせた割合は93.2%となっている。
- ・ゼロゼロ融資利用企業の返済見通しについては、「融資条件どおり全額返済予定」が88.2%となっている。

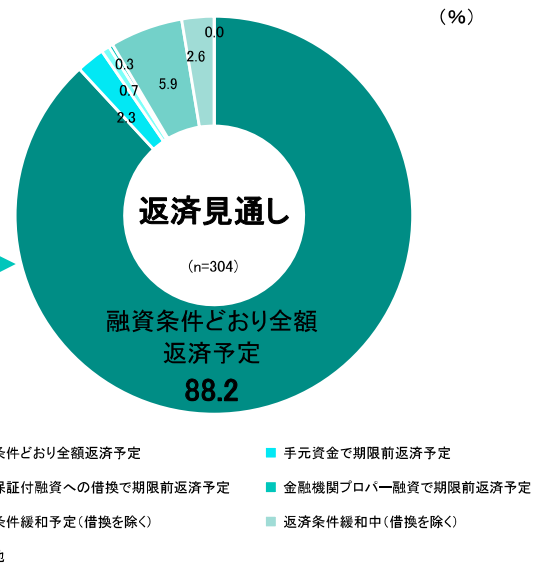
※ ゼロゼロ融資とは、2020年5月に創設された民間金融機関における実質無利子・無担保のコロナ関連融資のことであり、国が保証料補助・利子補給を行う融資制度を指す。

(1) ゼロゼロ融資の返済状況



(注)「当初からゼロゼロ融資を利用していない」企業は除く。

(2) ゼロゼロ融資利用先(他の保証付き融資へ借換えを含む)の返済見通し

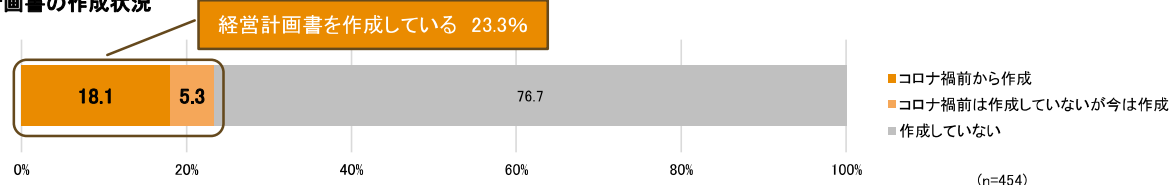


3. 経営計画書の作成状況と現在の業況について

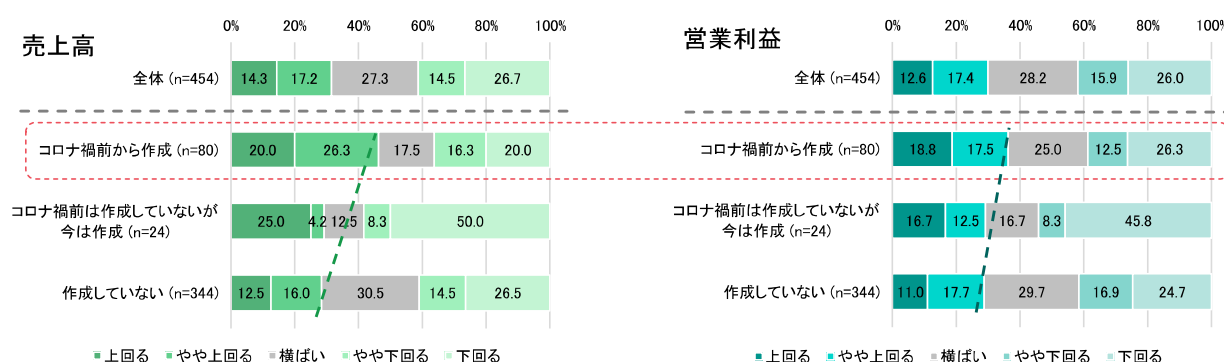
- ・経営計画書(※)を作成していると回答した企業は23.3%となっている。経営計画書を作成している企業のうち、多くがコロナ禍前(2019年をいう。以下同じ)から作成している。
- ・コロナ禍前と比較した現在の業況(売上高・営業利益)を経営計画書の作成状況別にみると、現在の業況がコロナ禍前を「上回る、やや上回る」と回答した企業は、経営計画書を「コロナ禍前から作成」している企業において高い割合となっている。

※ 経営計画書とは、事業計画、収支計画(売上高、営業利益などの将来予想を含む)を包含した内容を記載した計画書を指す。

(1) 経営計画書の作成状況



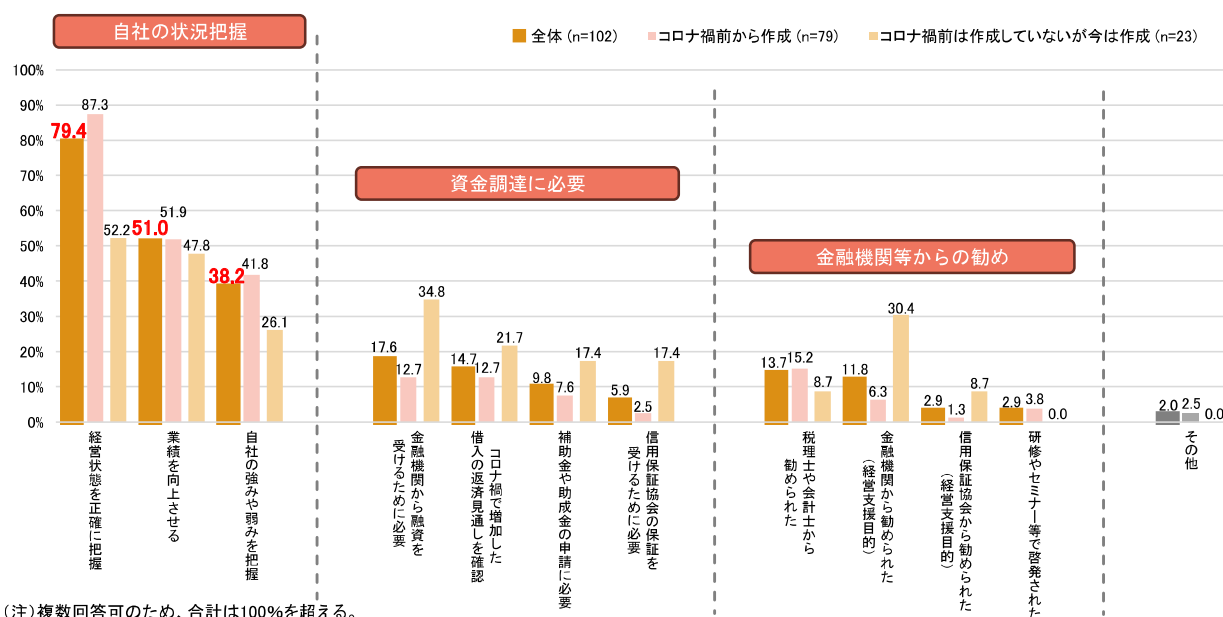
(2) コロナ禍前と比較した現在の業況【経営計画書の作成状況別】



4. 経営計画書作成の背景・理由について

- ・経営計画書作成の背景・理由は、「経営状態を正確に把握」(79.4%)、「業績を向上させる」(51.0%)、「自社の強みや弱みを把握」(38.2%)の順となっており、「自社の状況把握」のために作成している企業が多いことがうかがえる。
- ・「コロナ禍前は作成していないが今は作成」している企業では、「コロナ禍前から作成」している企業に比べ、「資金調達に必要」なために作成している割合が高い。また、「金融機関から勧められた(経営支援目的)」ために作成している割合も高い。

経営計画書作成の背景・理由【作成時期別】

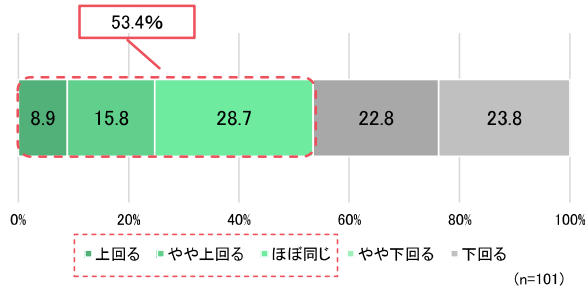


(注)複数回答可のため、合計は100%を超える。

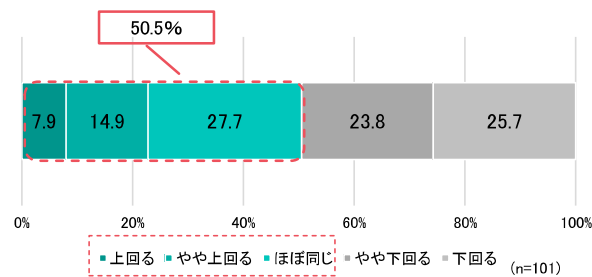
5. 経営計画書の計画値と実績値の比較及び経営計画の進捗状況に関するメインバンクとの対話頻度

- ・売上高及び営業利益について計画値と実績値を比較すると、計画値と「ほぼ同じ」及び計画値を「やや上回る」、「上回る」企業で半数以上(売上高:53.4%、営業利益:50.5%)となっている。
- ・経営計画の進捗状況に関するメインバンクとの対話頻度については、「概ね一年に一度程度」(37.1%)が最も多く、次いで「四半期に一度以上」(27.8%)、「概ね半年に一度程度」(14.4%)の順となっている。

(1) 経営計画書の計画値と実績値の比較【売上高】



(2) 経営計画書の計画値と実績値の比較【営業利益】



(3) 経営計画の進捗状況に関するメインバンクとの対話頻度

